

通告番号 1

## 一般質問発言通告要旨

通告者 14番 真崎寿浩

### 1 財政

新年度をむかえるにあたり、危機的な財政状況を立て直すために行財政改革を断行する方針を打ち出しているが、何事もそうであるが、急激な変化は、多くの痛みを伴ってしまう可能性がある。

その痛みを少しでも和らげる手法はどのように考えているのか、見解を伺う。

- (1) 事務事業評価個別シートにおいて「縮小」「廃止」となった事務事業について、相手のある場合、その説明は十分になされたのか。また、そこからの意見等について、反映される機会はあるのか。
- (2) 事務事業評価個別シートにおいて「廃止」となった事務事業「消防団員家族慰労金支給事業費」について、仙北市消防団に対して説明を行なったとすれば、その時に出された意見等はあったのか、あったとすればどのようなものだったのか。  
「消防団員家族慰労金支給事業費」は、直接的な消防団員の確保にはつながらないという判断はわかるが、団員のモチベーション維持には有効と考えるが、見解を伺う。

### 2 観光

「アフターコロナ」その対策は万全なのか

第三次仙北市観光振興計画は完成を延長したが、その完成品はそれぞれの観光スポットにおいて住民と密着したなかで魅力をしっかりとPRできるものでなければならぬと考えるが、見解を伺う。

### 3 安心・安全の地域づくり

仙北市は急峻な地形を抱え災害が発生しやすいイメージがあるが、更なる地域強靭化の必要性について見解を伺う。

- (1) 仙岩峠の今後の整備は。
- (2) 市道神代中央線の現状と今後の整備について。
- (3) 通学路等において安全性を保つために整備を急がなければならない箇所はないのか。  
あるとすればその対応は。

通告番号 2

## 一般質問発言通告要旨

通告者 2番 小田島 広仁

### 1 財政状況の立て直しについて

(1) 新年度予算についてはかなり厳しい状況の中で、除雪費を当初予算に計上した事など、前向きな取組であると私は考えている。しかし、当市の財政難という大問題は続いている、簡単には解決できる状況ではなく、公共料金等の負担が大きくなることが想定される。また1月20日に「自治体財政状況ランキング(2022年版)」がプレジデントオンラインにて公表され、「貧乏自治体ランキング市区編」の18位に当市がランキングされたこと等で、不安を抱いている市民が多くなっていると感じている。

暗い話が多くなってきており、今後、歳入、税収を上げられるような明るい情報はないか。特に先日の施政方針にて「危機的な状況にある財政状況を必ず立て直す。」と力強い言葉もあり、「法定外目的税の導入、補助金等獲得戦略の検討を進める。」との発言もあった。具体的に考えていることを伺いたい。

(2) 昨年9月に入湯税増税について一般質問し、「市役所内部で検討し、必要に応じて観光業者と検討が必要であればその時はそういった場を設けたい。」との答弁であったが、その後、検討していただいたのか。また、検討いただいた結果、次への行動があったのか伺う。

### 2 第3次観光振興計画の延期について

(1) 今年度完成予定であったが、「観光立国推進基本計画」の関係で「延期」と判断したのはいつ頃なのか。また、それまでのワーキンググループ、策定委員会の開催数は何回開催されたのか、進捗状況は順調であったのか伺う。

(2) 費用については当初の契約価格と変わらないのか。また、変わらない場合、今後も追加経費が発生することはないか伺う。

### 3 株式会社おもてなし仙北について

(1) スタートして半年が経過したが、経営状況等については、あまり話が聞こえてこない。現状と今後の方針等について伺う。

(2) 多くの退職者がいたと聞いている。スタッフ不足でサービス低下になっていないかと心配する声も上がっているが大丈夫なのか伺う。

(3) 新会社設立前にコンサルタント会社からの提案では、クリオンの宿泊事業を中止する方向との説明があったが、その後も方向性は変わっていないのか伺う。

### 4 総合体育館建設、市内体育館の管理等について

(1) 総合体育館構想については長い歴史があり、関係者の方々はわずかな希望を持ちながら、首を長くして市の動きを待っている。令和2年5月に「早期建設に関する要望」

として請願書を提出したが、一度取り下げ、令和3年2月に内容を変え請願書を再提出し採択されている。現状の財政状況を考えると厳しい状況ということは理解できるが、現時点での考えを伺う。

- (2) 生保内体育館の大規模修理を昨年度実施したが、耐震性等を考慮して、これからどれくらいの期間使えるものと考えているか。また、市内各地に体育館が存在しているが、決して新しいものではなく、修理等が必要なものも多くなっていると思われる。市内の体育館数と建物の状況、今後の対応等について伺う。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 8番 熊谷一夫

### 1 安心で安全な子育て環境の整備について（子育て応援トータルプランを受けて）

少子化は想定を大きく上回るスピードで進み、児童虐待やいじめ、不登校、自殺も増え、子どもをめぐる状況は深刻である。また、子どもを持つ事自体をリスクと考える若者も増えている。公明党では、この現実を重く受け止め、昨年11月「子どもまんなか社会」の実現に向けた「子育て応援トータルプラン」を発表した。

今年4月からは「こども基本法」が施行され、こども家庭庁も設置される。いよいよ本市でも、子どもや若者、男女共同参画の視点から、子どもも親も希望を持って幸せを実感できる社会への構造改革を本気で進める時だと思う。そこで伺う。

#### （1）0歳児の見守り訪問事業の展開について

この度、妊娠期から出産・子育てまで一貫した伴走型相談支援と妊娠・出産時に計10万円相当を支給する財源が、補正予算により確保された。そこで、本市における0歳児の見守り訪問事業の展開について、具体的に何をどのように進めようとしているのか伺う。

特に、現場に寄り添う伴走型支援については、人材の育成や確保のための体制整備が必要と考えるが、当局の見解を伺う。

#### （2）家庭支援員（産後ドゥーラ）の確保について

見守り訪問事業等を実施した際に、各家庭の事情や親の健康状態などから、子どもと親の日常を守るために家事支援等が必要なケースも予想される。産後のお母さんのご自宅に伺い、家事からお子様のお世話、お母さんの情緒面も含め、産後のお母さんに寄り添ったサービスを提供する家事支援員（産後ドゥーラ）の育成や確保も必要である。そこで、家事支援員の資格を取る為の支援制度の創設なども有意義と考えるが見解を伺う。

#### （3）子ども食堂の整備拡充について

子ども食堂の運営のためには、スタッフやボランティアなどの人材、場所、運営資金、食材、地域や学校との連携の人脈、保健衛生管理の知識など、様々な運営資源の確保が必要である。子ども食堂は、月1回開催のところから365日3食を提供している、数人を対象としている、毎回数百人が集まるところまで、実に多様である。

目的も、おなかをすかせた子どもへの食事提供から、孤食の解消、滋味豊かな食材による食育、高齢者と子ども、地域交流の場づくりときさまざまである。

子どもをめぐる状況は深刻であり、様々な形態の子ども食堂の整備や運営をサポートする体制を整備し、我が地域へ柔軟かつ積極的に子ども食堂の整備を進めるべきと考える。

全国7,000カ所以上開いており、明石市では、市内47カ所に子ども食堂があり、全28小学校区にある。市は補助金を出して本気で取り組んでいる。（北上市で

は6か所開設。さくら小学校では調理室でこども食堂を開いている）本市の子ども食堂の現状とこれからを伺う。

## 2 敬老祝い金条例の満80歳5千円支給廃止に再考を！

（1）満80歳の敬老祝い金条例の一部を改正する条例と共に、当初予算からも削減される。

戦後の大変な時代の日本を支え、生き抜いてきた年配の方々が、敬老の日に満80歳を迎え、市から祝い金をいただくのを生きがいとし楽しみとしている。還暦を過ぎた市民にとっては一つの節目であり、家族が集まって祝ってくれる。老人クラブの方々から「老後の唯一の楽しみも削ってしまうのか？」との行政に対する怒りと嘆き、落胆の声もあった。この事業の廃止の反響は市民にとっても大変大きいものがある。生保内地区では、毎年「敬老を祝う会」で社会福祉協議会から傘寿記念祝いとして、80歳になられた方一人ひとりに写真額を贈呈し、お祝いしていた。今は、生保内財産区が財源となっている。祝い金は金額にすれば令和5年度は340名×5,000円=170万円である。

「たかが5千円されど5千円である。」金額以上に、高齢者にとっては、かけがえのないものである。「民の心」「市民の声」を聞いていただきたい。この事業廃止の提案、決定を行った経緯と当局の見解を伺う。

（2）「予算（税金）は、民衆を幸せにするためにこそ使うべきである」との格言もある。わずかの予算で、多くの市民が幸せを享受して良かったと感謝されるのであれば、行政としても最良の施策であると思う。団塊の世代以上の唯一の心のよりどころを奪わないでいただきたい。市民に寄り添い、下から支え、幸福になる為の予算確保をお願いしたい。

当市の例年の決算では1千万円を超える不用額が発生している。高齢者の方や家族にとって80歳の敬老祝い金への思い入れは相当のものがある。文字通り、「優しさにあふれ健やかにくらせるまち」となるように、条例の取り下げ及び予算の再考（予備費対応等）を強く求めるが見解を伺う。

## 3 帯状疱疹の予防ヘワクチン接種費用の補助について！

ピリピリした刺すような痛みや焼けるような症状が伴い、顔、首や腹部・背中などへ赤い発疹が広がる帯状疱疹（つづれご）は、50歳以上で発症した人の内約20%が、治癒後に疼痛が残る帯状疱疹後神経痛（PHN）になるという報告がある。私の友人も、昨年11月にかかり1週間入院し、今も通院治療を続けている。身近にかかった高齢者がいると思う。帯状疱疹は50歳以上から発症リスクが上昇し、70歳以上でピークになり、80歳までに3人に1人が発症する。高齢化の進行及び小児水痘ワクチンの定期接種化等の影響により、帯状疱疹の発症が増えつつある。

そこで、発症を防ぐのが予防ワクチンの接種である。50歳以上を対象にワクチンは、生ワクチン（皮下注射）、不活化ワクチン（筋肉注射×2回）の2種類がある。

しかし、全額自己負担の「任意接種」の為、接種費用が約1万円～数万円かかる為、「良いのはわかっているけれども金額が高くて」と高齢者には大きな負担となっている。

全国の自治体では、ワクチンの接種費用の助成制度を設ける自治体が広がっている。

秋田県では、能代市、三種町、八峰町、藤里町で65歳以上に1回4,000円、東

成瀬村は不活化ワクチンのみで半額助成と全国では50以上の自治体が公費助成を行なっている。

東京都が今年の4月から、帯状疱疹ワクチンの50歳以上を対象にする全区市町村に2分の1を補助する予算案を発表した。ワクチン公費助成導入は県内、全国の自治体へと広がっている。当市では、帯状疱疹ワクチン接種に来年度当初予算5千円の補助を付けていただいた事は、高く評価したい。そこで、伺う。

- (1) 本市の帯状疱疹と後神経痛（PHN）の患者数、現在のワクチン接種状況について  
今後の予防・効果と接種目標、何名分の予算なのか。
- (2) ワクチン接種費用の補助がある事をどのように市民に周知・徹底していくのか  
当局の見解を伺う。

#### 4 学校教育における部活動の地域移行について

国は、来年度から公立中学校の休日の部活動を段階的に教員から地域のスポーツクラブ等に移行する方針である。部活動は、生徒同士や教師との人間関係の構築、学習意欲の向上、責任感、連帯感など多様な学び・教育の場として教育的意義が大きい。

本市でも、生徒数や指導教員の減少により団体競技等では学校単位の活動維持が困難となってきた。現場からも不安の声が寄せられている。そこで以下の点について見解を伺う。

- (1) 各中学校の部活動の現状（種目・合同チーム）と今後の地域移行の方向性について
- (2) 監督・コーチなどの指導者の確保と育成について
- (3) 部活動における予算・財政面の確保
- (4) 生徒・保護者・地域・学校の「地域移行」に向けての理解・周知方法について

## 一般質問発言通告要旨

通告者 9番 平岡 裕子

### 1 高齢者の生活支援について

令和5年度施政方針の中で、昨年末で仙北市の高齢化率は43.86%に達し、高齢者を支える現役世代が減少し、高齢の単身世帯や高齢夫婦のみの世帯が増加しているとの報告があった。高齢の方が元気で暮らしやすい環境を整えていくことは、社会参加を促し希望の持てる生活を営むことができると思う。高齢の方の生きづらさをあげれば、加齢とともに耳の聞こえが衰え、補聴器購入費助成を待ちわびている。補聴器をしているが、大勢が集う場では声が聞き取りにくく、講演会など参加したくてもためらってしまう。また冬の除雪は本当に大変。除雪を誰に頼んだらいいのかわからない。真夜中に機械で寄せられた雪の塊の始末に苦労している。などの声が寄せられている。

- (1) 高齢難聴者補聴器購入費助成事業は、予算採択後いつから開始予定であるのか。希望者が多数を占めた時の対応はどうするか伺う。
- (2) 磁気ループ設備で補聴器使用者への聞こえの支援をできないか伺う。
- (3) 高齢者除雪支援制度の拡充をできないか伺う

現在、75歳以上の住民税非課税世帯や個人などを対象に、制度実施をしているが、課税世帯であっても高齢で単身、高齢夫婦のみの世帯にも支援できる内容にしてはどうか。

### 2 国保税の均等割負担軽減で暮らし応援を

令和4年12月末で、被保険世帯は3,467世帯、被保険者数は、0歳から74歳まで5,167人、今後5年以内には、後期高齢者医療制度に移行する人は1,779人で全体の34%になる予想である。国民健康保険加入世帯は、無職、自営業、非正規労働者世帯で軽減措置はあっても、家計に占める税負担は高く令和3年度の決算では、未納金が5,573万7千円、延滞金が402万9,919円となっており負担が多いことは数字が示している。中でも、均等割税の負担は、家族人数が多いほど多くなる。

本定例議会での税率の見直しは、必至の事態と察するが、諸物価高騰の中で市民生活は一層厳しく、税負担の軽減を望み、被保険者から預かった余剰金が出た時はお返しする理念にのっとれば、更なる税の軽減はできるのではないか。

- (1) 現在の基金の積立金はいくらか。
- (2) 未就学児の均等割税の半額助成の実態と出生数の減により、子育て支援の側面からしても、財政が許すならば年齢拡大も可能と思うがいかがか。
- (3) 税率改正にかかるシステム改修費用はいくらか。
- (4) 今後、被保険者が減ることにより、国保会計はどのように展開していくのか。

### 3 市と市民の情報共有について

昨年12月22日にタブレットで、行政財産である田沢湖総合開発センターを株式会社秋田銀行に、貸し付けを12日に開始したと報告があり、12月定例議会で報告があったかなと自分の記憶をたどったが、タブレットでの報告のみで、市民からの問い合わせに答えられずにいる。

- (1) 田沢湖総合開発センターの一部貸し付けに至るまでの経緯と貸し付け要件（使用料・改修工事費・光熱水費など）について伺う。
- (2) 開発センターは農林商工部の管轄で、かつては他の組織が入ると目的外使用として制約があったように記憶しているが、現在の状況について伺う。
- (3) 仙北市開発センター条例との整合性について伺う。
- (4) 間借り状態である公民館職員が、担当部署の任を担って管理に務めてきたと思うが、今後建物の管理、不特定多数の人の往来、セキュリティ対策等どのようになされていくのか。

### 4 事務事業評価により廃止となった、住宅リフォーム促進事業の復活を望む

補助額を減額したことにより、利用者が減少した。令和3年度には、583万5千円に対し、対象工事費は1億4,289万3千円となっており、直接効果で20倍以上あげており、市民、事業者のために存続が必要である。廃止に落胆の声が聞かれる。景気が低迷している時だからこそ、中小企業支援が必要ではないか。所見を伺う。

通告番号 5

## 一般質問発言通告要旨

通告者 11番 荒木田 俊一

1 秋田新幹線仙岩トンネル整備について仙北市はどうとらえているのか。

(1) 各行政組織や県民・市民が盛り上げ早期着工を目指すべきと思うがどうか。

(2) 昨年11月9日に開かれた大会には市長、副市長も欠席であったがどちらかが参加すべきではないか。

2 農業用肥料高騰対策に国からの支援以外はないのか。

肥料や電気料の高騰がやみません、このままでは農家は再生産に必要な収入が得られない状況です。

(1) 国の支援策にプラスして市が支援していく考えはないのか。

(2) 減肥や減エネルギーに向けた農業政策の推進はないのか。

3 市道向生保内線のJA手倉野倉庫付近の改良工事の必要はないのか。

この場所は10数年以前から地域の要望として改良のお願いをしている。

(1) この個所は道路の構造上問題はないととらえているのか。

(2) 必要と取られているのであればなぜできないのか。

4 災害等に対応する市の組織や市民の対応力は万全か。

災害が起きた後は訓練等も行われるが年数の経過とともに体制は薄れてきているのではないか。

(1) 危機管理監や係、市役所全体の体制を机上訓練等もふくめ、高めていく必要はないのか。

(2) 自主防災組織は作ることも大事だが、活動能力を持つことが重要と思うがどうか。

5 消防団員退職時家族慰労金支給条例はなぜ廃止するのか。

(1) 事務事業評価だけをもって議会や住民にプロセスも何も説明もなくいきなり廃止は、手続きも含めて乱暴ではないか。

(2) 評価の過程で条例ができた経過等、十分理解して誰か評価した結果なのか。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 12番 小林幸悦

### 1 入見内川及び川下田川の河川改修工事の更なる促進について

この両河川での災害はこれまで3回大きな被害を出しているが全て平成の後半に発生している。その都度地域の強い思いとして市からも協力を得て県に河川改修の要望をしてきた、結果、工事が着手され、特に月見堂橋の上流100m程のところにある頭首工の改良により水位がかなり下がることになり少しは安心している。その後も毎年工事は進んでいるが、昨年度は60m程で今年度は40m程の工事であり、この上流にも流れを阻害する箇所が数カ所ある、これまでの進捗状況からすれば工事が終わるまでこの先何十年もかかることになる。

また、川下田川は現在最も下流部分である「さわやか桜館」付近の工事を行っている。この流域の住民も何回も被害に遭っている。平成29年の豪雨被害の後大型土嚢を設置してもらい、これまで凌いできたが改修工事の早期実現を強く望んでいる。引き続き上流部の工事をお願いするところだが、今後両河川の工事がどのように進んでいくのか情報があれば教えていただきたい。また、さらなる工事促進のお願いを県に強く要望していただきたい。

### 2 入見内川の田中観測所は西長野地区の避難指示等を判断する地点として妥当か。また、避難所として花葉館の協力は得られないか

昨年8月の豪雨で西長野地域を流れる入見内川が田中観測所で危険水位に達したことから避難指示が3回出された。

月見堂橋が西長野地域の下流域になるがそこから観測地点の田中観測所まで2~3km程の距離がある。確かに田中観測所では危険水位に達したことでの判断だと思うが、西長野地域の河川改修がある程度進んだことで、以前と比べると水位はかなり下がっている。

安全確保のためにも早め早めの対応は必要であるが、状況をもっと正確に判断するには月見堂橋付近に観測器を設置することも考えては如何か。

避難する時期は夏場であろうと考えるが、西長野交流センターにはテレビもエアコンもなく暑くて窓を開ければ虫が入ってくる心配もある。それに和式しかないトイレ、先般11月議会での質問に簡易型洋式トイレを準備するとか、体の不自由な方には設備が整った角館庁舎に移動していただくことも考えていると答弁したように記憶している。

避難する方が一番大変だが、それに対応する消防団や職員の方々も大変なことだと思う。こうした負担を少しでも軽減するには最初から設備の整った角館庁舎に避難していただいたほうがお互いの負担軽減になるのではないか。

さらには、花葉館から受け入れていただければ避難者にとって最もゆっくりできる避難場所になると思うが可能か伺いたい。

### 3 事務事業評価について

市の逼迫した財政状況からして思い切った財政の改革が求められていることは理解できる。事業はもちろん、各種団体への補助金等にあっても例外ではなく、これまでの慣例的な補助の見直しが必要なことも理解できる。

しかし、これまで補助金の交付を受けていた市民サイドにとっては、少なからず困惑や反発も想定され、こうした厳しい局面において、住民の理解を得ながら改革を断行することは、容易なことではないと思われる。

そこで、事務事業評価で廃止と判断された7事業のうちの2事業と、その関連について伺う。

#### (1) 若者マイホーム取得助成金について

評価シートの判断理由に本事業がなくても新築は成される、若者に対して本当に必要な助成を別の形で考えていく、とのコメントが載っているが、5年度予算に反映されているのか。

#### (2) 住宅リフォーム促進事業補助金について

この事業が廃止されることに対し継続を望む声がいろいろ聞こえてくる。市にも要望書が提出されていると思うが復活は考えられないか。また、県及び近隣自治体の動向は。

#### (3) 事務事業評価決定前に議員全員協議会を

今後も事務事業評価を続けていくことであるが、これは予算を伴うことのない、市長の専権事項ではあるが、これまで事業を進めるにあたり議会も関わってきたことから、評価を決定する前に、議員全員協議会を開催して説明する機会があっても然るべきと思うが如何か。

### 4 幸福度日本一について

人は何をもって幸福を感じられるのかは千差万別であり、個人の価値観の多様性により画一的な判断基準は無いように思われる。市長は幸福度日本一を目指すと言われるが以下の事項について見解を伺いたい。

#### (1) 「幸福度日本一」を目指すには何をどうすればよいのか。

#### (2) 令和5年度において「幸福度日本一」を目指すための具体的な事業は何か。

### 5 副市長が考える今後の仙北市が取り組むべき課題は

昨年の7月に副市長に就任され7ヶ月余りになるが、仙北市について何か感じたことがあれば伺いたい。

就任以来、市の厳しい財政の話、コロナや世界情勢のありを受け急激な物価高、資材や機器の品薄、人出不足、等々明るい話題の少ない昨今である。

副市長から仙北市が元気で明るい町づくりを進めて行くうえで取り組むべき課題等があれば伺いたい。

通告番号 7

## 一般質問発言通告要旨

通告者 13番 青柳宗五郎

### 1 田沢湖の再生の取組と観光について

1940年（昭和15年）に灌漑と水力発電のために田沢湖に入れられた、玉川の水が酸性であったため魚が絶滅してしまった。田沢湖に生息した絶滅種のクニマスが山梨県の西湖で約70年ぶりに確認された。これに貢献したのが東京海洋大学客員准教授のさかなクンであり平成22年3月に京都大学中坊徹次教授が研究の結果、田沢湖で絶滅したクニマスであることが判明。同年12月に発表され、日本中に大きな驚きと感動を与え、天皇陛下（現上皇陛下）の平成22年お誕生日の記者会見でのお言葉でクニマスを奇跡の魚とお話になりました。

- (1) クニマス発見から約12年の間どのような取組をしたのか
- (2) 田沢湖の護岩の進捗状況を伺う
- (3) 田沢湖の観光についての取組を伺う
- (4) 国に再生を要望する取組は考えられないか

### 2 秋田自動車道西道路の延進について

現状は大仙市で終了しているが仙北市まで延長する為の取組をする考えはないか